

幼稚園教育実習における指導案の現状と課題

The Current Status and Issues of Teaching Plan in Kindergarten Teaching Practice

横峯 孝昭¹⁾, 中村 礼香¹⁾, 藤川 和也¹⁾, 金浦 美咲¹⁾, 渡邊 光浩¹⁾, 丸田 愛子²⁾
Takaaki Yokomine, Ayaka Nakamura, Kazunari Fujikawa, Misaki Kanaura,
Mitsuhiro Watanabe, Aiko Maruta

¹⁾ 鹿児島女子短期大学, ²⁾ 鹿児島国際大学

学生が一番初めに経験する教育実習の中で、保育指導案を作成するにあたり困難と感じている部分は何か、アンケート調査を行いその分析を行った。アンケートは困難と感じた指導案の項目とともに、それをさらに具体的に言語化してもらい、具体的に何を困難と感じているのかが指導する教員側にもわかるように試みた。本研究において、学生が指導案のどこの記載に困難さを感じているのかを理解できたとともに、学生が実習で何を持ち帰ってきているのかの一端を覗き見ることができ、それらを、今後の実習指導、講義に役立てていきたい。

Keywords : kindergarten teaching practice, teaching plan

キーワード : 幼稚園教育実習, 指導案作成

1. はじめに

教育実習・保育実習の指導案作成はいつの時代も、学生が実習中に苦慮するものであるように感じる。作成する側も難しいと感じるだろうが、指導することも大変難しいと感じる部分もある。その理由については、指導案というものが、養成校ごと、実習現場ごとに様式や、形式のパターンが違い、何を重要にとらえるかによって書き方も大きく異なるからであろう。一度現場に出て、実情を知ったうえで記載すると、何が重要なのか、様式や形式のパターンが違ってもこの部分とこの部分は同じことであろうと感じることはできるのだが、現場を知らない学生にとっては項目名が違っただけで違うものととらえ、さらに混乱してしまうということも多々あるようである。

実習園と養成校の実習に関する意見交換等の場では、実習前では必ずと言っていいほど、養成校ではどの程度指導案を書く練習をしているのかという質問が出てくる。また、実習後は指導案の提出が遅れる学生がいた（書くことに困難な学生がいた、これは指導案のみに限らず実習日誌との兼ね合いもみられるが）ということが課題としてあげられる。特に指導案を書くことが困難と思われる学生に関しては、実習の他の部分に影響が出てくることもありえる。

そこで、本研究においては、初めての实習で学生が指導案のどの部分を書くことを難しいと感じているのかを具体的に把握し、それを実習指導、講義等で役立てたことを目的としている。

2. 指導案指導の概要

2.1 鹿児島女子短期大学（以下、本学）における指導案指導

本学において幼児教育における指導案指導を行っている科目としては、1年前期：幼児と言葉（R4年度より幼保コース1年後期、小幼保コース2年前期へ移行）、情報機器演習、保育内容（言葉）の指導法、1年後期：幼稚園教育実習Ⅰ指導、保育所実習Ⅰ指導、保育内容（環境）の指導法、保育内容（表現）の指導法、2年前期：保育内容（健康）の指導法、2年後期：保育内容（人間関係）の指導法、保育内容総論といった科目にシラバス上明記されている。

2.2 実習園

附属 A 幼稚園（鹿児島県鹿児島市）

附属 B 幼稚園（鹿児島県鹿児島市）

附属 C 幼稚園（鹿児島県鹿児島市）

2.3 対象学生

児童教育学科1年生 187名

・前期（3・4組）90名

・後期（1・2組）97名

2.4 実習期間と園における配属組

・前期：令和3年11月2日（火）～11月16日（火）3・4組

・後期：令和3年11月25日（木）～12月8日（水）1・2組
各幼稚園の各クラスに幼稚園の担任の勤務年数に応じて

3～7名学生を配属

3. 幼稚園教育実習Ⅰ事後アンケートの調査の結果と分析

「幼稚園教育実習Ⅰ指導」の最終日に事後指導として、幼稚園教育実習Ⅰ終了後の振り返りアンケートを行っている。令和3年度は追加で「指導案作成に関するアンケート調査」を行った。(表1)

表1における項目1のアンケート結果については表2のとおりである。

特に本学学生が困難と感じた項目は、「幼児の姿」の〈配慮を要する幼児〉が最も高く62.6%、次いで「本時」の展開の中の教師の活動・援助が50.8%、その次に「本時」のねらいの44.9%となっていた。

次に、アンケート調査の項目2において、なぜその項目を書くことを困難と感じたのか言語化してもらった結果が以下のとおりである。原文のまま記載する。(文中“教生”という言葉が出てくるが実習生のことである) また、文中の数字は分析の結果①原体験不足が原因と思われる困難さ、②保育実践との差から感じた課題、③各内容・表現・言葉選びの困難さ、④書き方の把握による困難さの4つに分けることができると考えそれを示している。

全般的な内容として

- ・指導案を書く際に実際に見たことがない場面を想像して書いたから。①
- ・幼児一人一人の援助の仕方が異なったため。②④
- ・全然書き方が違って、全部やり直しになった。もっと詳しく書いてほしいといわれたが難しく困難だと感じた。①③
- ・素案を提出する日までに幼児の姿を詳しく知ることが困難だったから。①③
- ・一番目の担当保育だと、素案を出すのは3日前のため、まだ観察を2日しか経験しておらずクラス全体の様子や既習経験など幼児の姿に関する内容を深く書くことが難しかった。①
- ・2週間で幼児を把握することが難しかった。①③
- ・予想される幼児の活動、幼児の姿の内容は狙いに沿った文章を書かなければいけないということを知らなくて、ねらいがしっかりしていなければ書けないことが分かった。④
- ・クラス全体の様子と既習経験の内容が同じになってしまって難しかった。③
- ・どんな書き方が正解かわからなかった。③
- ・クラスの実態を知っていないと書けない、クラス全体の様子、既習経験、配慮を要する幼児を書くのが難しかった。

た。幼児と会うのは実習の最初の日が初めてでそこから3日間の観察や1日の参加保育の中で分かったことを反映して書かなければならないので、本当によく観察して幼児のことを理解していないと全く書くことができない内容であると感じた。4日間ぐらいの中で自分が気付いたことや、一人一人の幼児の様子をしっかりと把握する必要があると思う。①③

- ・どこに着目すればよいか説明はあったが難しかった。正解がわからなかった。③
- ・指導案作成の前に幼児とのかかわりが少なかったため、幼児の姿を書くことが難しかった。①③
- ・文章力がないから全体的に書きづらかった。③

クラス全体の様子

- ・クラス全体の様子等は実際に実習が始まないとわからない。
- ・クラスを少ししか見ないうちに、クラス全体の様子を書かなければならなかったので大変だったし、あまり、様子が予想できなかった。
- ・実習の間に観察の際などでクラスの様子を見ることができけど、その見たクラスの様子を文章にするのが難しいと感じた。
- ・どんなところを見て明るい元氣と感じたのかを言葉や文章で表現するのが難しかった。③

既習経験

- ・既習経験ではオリエンテーションの時にメモした分のみでよくわからなかったし、観察だけでは不十分だと思った。
- ・オリエンテーションの時も話を聞いたが、自分の担当保育の内容ではなく、直接教師にも聞いたが理解することが難しく文章をまとめるのに時間がかかってしまった。③
- ・観察する上でわかることが多く、どのようにすれば文を短くまとめることができるのか、短い文の中で、ほかの保育者にしっかり伝わる文章を書くことが難しかった。③
- ・自分の保育と関係あることをどういう風を書くのかわからず大変だった。③

配慮を要する幼児

- ・配慮する幼児を把握することが難しかった。①③
- ・配慮を要する幼児は、子供たちを肯定的に書くことが難しい。③
- ・担任の先生が行っている援助が何種類もあり、具体的にどれを書けばいいのかわからなかった。①

表1 指導案作成に関するアンケート調査

令和3年

このアンケートはより良い指導を目指す研究のためのものです。結果は統計的に処理し、個人を特定することは一切ありません。また、研究以外には使用せず、研究発表をする際も個人を特定することはありません。ご回答をもってご了承いただいていたことにします。

1. 指導案作成について困難と感じた該当する箇所全てにチェックを入れてください。

1. 予想される幼児の活動 ☐

2. 幼児の姿

<クラス全体の様子> ☐

<既習経験> ☐

<配慮を要する幼児> ☐

3. 本時

(1) ねらい ☐

(2) 活動について ☐

(3) 展開

環境構成 ☐

予想される幼児の活動 ☐

教師の活動・援助 ☐

4. 反省・考察 ☐

2. 1で困難と感じた箇所のうち特に困難と感じたのはなぜか自由記述で下に答えてください。

3. 指導案の本案について提出をお願いします（横峯の講義で集めたいと思います）

表2 指導案作成について困難と感じた項目

1. 予想される幼児の活動		35/187 (18.7%)
2. 幼児の姿		
	〈クラス全体の様子〉	58/187 (31.0%)
	〈既習経験〉	72/187 (38.5%)
	〈配慮を要する幼児〉	117/187 (62.6%)
3. 本時		
	(1) ねらい	84/187 (44.9%)
	(2) 活動について	56/187 (30.0%)
	(3) 展開	
	環境構成	49/187 (26.2%)
	予想される幼児の活動	52/187 (27.8%)
	教師の活動・援助	95/187 (50.8%)
4. 反省・考察		14/187 (7.5%)

- ・活動ごとでそれぞれ違い、その援助も違うので難しかったと感じた。①
- ・幼児のことを傷つけることの内容にするかきかたを間違えてしまったり、今後はどのような支援をしていけばいいのか正しい答えを見つけることができなかったりした。③④
- ・1人ではなく何人かいて、全員分観察をして特性をつかみ否定的ではなく、肯定的に描くことが困難だと感じた。③
- ・短い期間でどんな幼児がいるか、しっかり把握し、その幼児に対してどんな援助がされているか把握しなければならないから難しいと感じた。①
- ・肯定的に書かないといけないため、言葉選びに苦戦した。③
- ・どの幼児を活動を行う上で配慮すればよいか考えるのが難しいと感じた。担任の先生が、反省会の中で少しずつ教えてくださらなかったら、より難しくなっていたと思う。①
- ・実際に観察をしてみて、自分で気づいたところは多かったですが、肯定的な言葉で書くことが難しいと感じました。③
- ・自分が担当保育を行う種類に応じて記さないといけなかったため、自分の担当保育の観察はよく見ておく必要があると感じた。①
- ・幼児の行動を全部肯定的に書かないといけなかったので言葉選びに苦しんだ。また、その幼児の行動に自分がどう援助し対処しなければいけないのか具体的に書かないといけなかったのととても難しかった。③
- ・少し体に不自由がある幼児の言葉での表現の仕方が難しいと感じた。③
- ・障害を持つ幼児のことは書かず、“自分が保育を行うと

きに、どんな行動をする幼児がいるのか”という視点で、観察で見たことを書くことを初めて知り、書き直す作業が多かった。③

- ・幼児一人一人を見て、製作や運動が苦手な幼児を見つけ書かないといけないうので、あらかじめ苦手な幼児を聞いていないと書けなかった。
- ・配慮が必要な幼児といわれていたが、実習中の活動では上手に取り組めていて書くことが難しかった。①
- ・配慮を要する幼児については、自分で観察をした上でまとめる必要があるということを知るのが遅くてぎりぎりまで空白だった。
- ・教師が見てと、自分が見てとの差があり難しかった。①
- ・オリエンテーション時に説明されていたのにあまりメモできていなくてなかなか書けなかった。③
- ・自分の担当保育をする中のことも書かないといけなかったので少し難しかった。
- ・否定的に書かないよう考えるのが大変だった。自分が肯定的に書けたと思っても違ったりした。③
- ・観察だけでは配慮する幼児を見つけられなかった。①
- ・どこからが配慮を要するのかの基準、配慮を要する幼児には具体的にどのように配慮するのか、配慮はこれであっているのかわからなく、素案を書くのは難しかった。③
- ・一人の幼児のことを書けばいいのか、クラス全体のことを書けばいいのかわからなかった。④
- ・自分で見て、考えて、その子供に合わせた配慮として何をすればいいのかわからなかった。①

ねらい

- ・1つの5領域の内容から幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿を描くこと、その内容を活動と結びつけること

が難しいと感じた。①

- ・こういうことをしたいというのを表現する日本語を選ぶのが難しい。③
- ・5領域のこれとは決めたけれどどう表現したらよいか難しい。③
- ・指針の内容から選んだものをその年齢の幼児やそのクラスの実態に合わせた文章に代える必要があり、指針の内容を自分なりに代えた文にするだけでは不備があったから。③
- ・一番大事な部分だと考えていたので、文章の組み立ても、つながりも難しかった。また、年齢・発達段階に合わせて考えるため、実習前に考えてからだの実習中にすごく悩んだ。③
- ・具体的にどのように書いたらよいかわからなかった。④
- ・指針と照らし合わせながら書くことが難しいと感じた。③
- ・指導案を作成するにあたって、どこにねらいをもっていくのかによって幼児の活動も変わってくるため難しいと感じた。①
- ・指導案で一番重要な部分であるというプレッシャーを感じ、ねらいを達成する援助を考えるのが難しいと思った。①
- ・幼児の発達段階に合わせてねらいを設定すること。①
- ・5領域10の姿を書くときに、きちんとしっかり読まず書いてしまっていたから、内容を読んでいくうちに思っていたものと違ったりしていた。③
- ・自分がこの活動でどのようなことを狙いとしたのか、考えるのが難しかった。また、ねらいを考えて文章にするのが難しかった。①③
- ・狙いがふさわしいか考えるのが少し難しく感じた、また、自分で内容を変えながら書くのが難しく感じた。①
- ・どのように書けばいいのかわからなかった。④
- ・幼児に育ってほしい部分を明確にしたのち10の姿を探すのが難しかった。①

活動について

- ・きちんとした構成があり、文章力も多く細かく書かないといけないので園の書き方をもう少し授業で学べていたらいいと思った。③
- ・活動については、書き方があり、また内容をねらいなどと結び付けて書かなければならなかったので1番時間がかかり訂正が多い部分だった。①③
- ・幼児の動きや教師の動線を考えながら活動の良いところを簡潔にわかりやすい文で書くことが困難だと感じた。内容をまとめて、文で表現することが難しく、量が多く

なりすぎてしまったり、内容が薄くなってしまったりしたら困難だと感じた。③

- ・自分にかかわる活動をしっかり観察することはもちろん大切だが、関係のない活動でもしっかり観察しておいたほうが良いこともあるので気を付けたほうが良いと感じた。
- ・詳しく書かないといけなくてやり直しを何回もされたから。③
- ・活動についての書き方を練習したことがなく、難しく感じた、また、実習が始まってから分の書き方についての詳しい指導があつて何とか書くことができたが、私は書くことがあまり得意ではないため、とても時間がかかってしまった。もっと自分で書き方について勉強するべきだったと反省した。④
- ・ねらいが決まってから「活動について」の文章も書くことができるので、ねらいが決まるまでは活動についての文章を完成することがなく大変だった。①

環境構成

- ・どうやったら活動がしやすいかなど考えるのが難しかった。①
- ・人数分の教具、材料を準備することや机の配置以外で書くことがわからなかった。④
- ・環境構成は（特に午後）幼児を誘導するのが難しい。②
- ・考えるだけは簡単ですが、それを実際に設定し、保育することが難しかった。②
- ・幼児が活動しやすい環境構成にするのが難しかった。①
- ・朝の環境構成でも、ただおもちゃを設定するだけでなく、幼児の興味のある遊びを踏まえて設定することや、朝遊んでいるときに机が足りなかったり、設定したおもちゃで興味を示さないものがあるとわかれば、その場で環境構成を再構成しなければいけない。よく幼児の状況を見ながら環境構成を書いていかなければいけないので難しかった。②
- ・実際に担当保育をしてみて、自分の考えていた環境構成では、幼児の活動のしづらさが見られたり、実際にしてみないとわからない部分もあったため、もっと自分の中でイメージをするべきだったと反省した。①
- ・実習に行って、観察実習を通して、そのクラスでの座り方や移動の仕方などがわかり、それによって、環境構成も変わってくるから難しいと感じた。①
- ・どうやったら幼児がのびのび遊べる環境なのか、自分が全体把握をしやすいようにできるかを考えることが難しかった。①
- ・リトミックだったため、一つ一つの動きを環境構成の図1つで伝えることが難しかった。③

予想される幼児の活動

- ・観察する中で大体こう動くんだろうなとは予測できるが、自分の中で構成している保育の順序と会わず少し難しかった。また、その時の教師の援助をどうすればいいのかわからない部分もあった。②
- ・幼児の行動を細かく予想できない。①
- ・幼児の活動しているイメージもわからない。また、担任の先生とのかかわり方と、教生へのかかわり方が違うので、予想していなかったことが起こることが分かった。①②
- ・自分の中で幼児にさせたい活動が細かくわかっていないといけなかったため困難と感じた。①
- ・活動の流れを書くのは簡単だけど、幼児の活動を予想するのが難しく、どのような行動が予想されるかなかなか考えることができなかった。①
- ・自分が予想していた以上に色々とハプニングが起きたりした。もっとたくさんの予想される幼児の活動をもっと具体的に予想しておけばよかった。①
- ・観察していたものの、予想される幼児の姿を考えることは難しかった。①
- ・あらかじめ自分で予想したことに加えて、幼児一人一人の行動を知っていないと難しいと思った。①
- ・幼児が予想以上にゲーム内容やルールを理解することが早く、最後のほうは活動に飽きている幼児がいたり、目立ちたいという願望を抱いてわざと座らないような行動をする幼児いたりしたから、状況に応じて活動内容を変えたり、言葉かけの援助をしたりすることが必要であることを学んだ。②
- ・幼児の一つ一つの動きに対してどこまで細かく書けばよいのかわからなかった。④
- ・幼児に予想していないことを言われたときにスムーズに答えることが困難だった。②

教師の活動・援助

- ・ねらいに沿ったものを考え、幼児の行動を予想しながら書くというのが難しかった。①
- ・「～できるように～する」という形に当てはめるのが少し難しかった。③
- ・幼児になじみのある言葉かけがある場合、その言葉の記述のやり方がわからなかった。④
- ・どこまで細かく書けばよいのかわからなかった。④
- ・「～できるように～する」という形を作ることが難しかった。「～たり」の思いつくパターンが少なく大変だった。幼児の活動1つ1つに援助を示すことも難しいと感じた。①③
- ・担任と同じような援助をしても、幼児に伝わらないこと

が多く、想像力を膨らませて書かなければいけなかったから。③

- ・予想される幼児の活動に応じた教師の活動・援助を書くことは、ワンパターンにならないよう気を付けて書くことが困難だった。③
- ・教師の行動を書いていたので、幼稚園の先生に指導していただき、援助を書くところで援助を考えるところが難しかった。①
- ・教師の活動・援助は教師の行動である「～する」ではなく「～できるように～する」という形で書くのが困難だった。③
- ・予想される幼児の活動から具体的にどんな言葉かけや援助をするのか丁寧に考える必要があるから。担当保育を経験して、教師の言葉かけ次第で幼児の姿が変化すると実感したためだ。また、細かく丁寧に書いておくことで、状況に応じた援助がすぐできるのだと気づくことができたため。①
- ・「～できるように～する」という文を使って書くことが難しかったです。また、一文を読んだときに、意味が解らなくなってしまって本当に書きたいことをうまく書けなかった。③
- ・教師が行うことで追う言った援助になるのかを想像することが難しかったり、記述の仕方が「～できるように～する」だったのでその文に当てはめるのが思いづかなかった。①③
- ・どこまで援助していいのかわからなかったため難しかった。②
- ・活動なのか、援助なのかの区別をつけるが難しい文を何文か書いてしまい、その文を援助に書き変えるのが大変でした。③
- ・ほとんどが言葉かけになってしまい、ほかにどのような援助があるのか考えるのが難しかった。①
- ・教師が意図的にどのようなことをするべきなのか考えるのが難しいと感じた。①
- ・クラスの実態、幼児の姿に合わせて援助を考えることに悩んだ。援助といっても、言葉かけか手を添えるのか、見守るのか様々だから。①
- ・「～するために～する」という書き方をしておらずすべてやり直しだったから。③
- ・教師の活動・援助では、教師が行うことを書いてしまう。訂正された後も、どういう風に書けばよいのかわからなくなった。③
- ・どのようにすれば幼児が安全に楽しく活動することができのかを考え、援助の言葉かけをどのように工夫するかを考えることが難しかった。①
- ・教師がどのように援助をしたら、幼児がどのように動く

かわからなかった。①

- ・先を見据えたことを書かないといけないのが難しかった。①
- ・ただ幼児の活動に対して書くのではなく、トラブルが起こってしまったり、困っている幼児についても考えて書かなければならなかったから、しっかりとイメージをする必要があることが分かった。①
- ・教師の活動・援助を具体的に示すことが難しいと感じた。その為、教材研究をする中で教師の援助や言葉がけは何がっているのかを考えることが必要だと思った。①
- ・この活動でどのような援助が必要か大まかには書けたが、どのくらいまでの援助が必要なのか考えるのが難しかった。①
- ・一つ一つの援助にはすべて意味があり、一人一人その幼児に合った援助を考え、行わなければいけないから難しかった。②
- ・期待を高められる援助、言葉かけの具体的な書き方。④
- ・予想される幼児の活動と同様に考えていても、思いもよらぬトラブルがあったときのために細かく詳しく書かないといけないし、考えた援助方法がきちんとあっているのか不安なため書くことが難しかった。②④

それぞれ学生が指導案を書くにあたって難しいと感じた点を言葉として表したものとなる。基礎学力な点からいうと、③の各内容・表現・言葉選びの困難さという文類に当てはまるが、それらについては地道に短大における日々の講義課題等で力をつけていく他ないと思われる。半面、学生が実習で持ち帰ってきた課題としての①原体験不足が得原因と思われる困難さ、②保育実践との差から感じた課題に関しては、現地に行きつけてきたことの証とも捉えられる文章も多々見受けられ感心させられるものも多い。これらについては今後の講義、演習、実習を通してしっかりと伸ばしていったほしいものである。④書き方のみ把握による困難さについては講義、実習を通して繰り返し練習を促していく他ないと思われる。

4. 今後に向けて

例年、実習指導の事後指導においてアンケートを行うと、指導案の書き方についてももう少し講義等で知りたかった、前もってもう少し指導案の書き方について勉強したかったという要望を書く学生も散見された。その文章だけでは具体的にどこに困難さを感じているのかが理解し難い。今回の研究調査において、その個所を具体的にし、実習指導、講義にフィードバックしたいという思いがあった。

今回特に書きにくいと学生が指摘した箇所として、幼児の姿の配慮を要する幼児、これに関しては特に本校における幼稚園教育実習Ⅰの時期までに学生が生徒の幼児とかかわる体験がほばないこと、加えてコロナ禍ということもあり、ボランティア活動の機会の減少、それまでの講義が座学メインであることを踏まえても困難であったのであろうということは容易に想像できる。しかし、1回目の実習ですらすらと書ける必要はないと思う。その後の保育所実習、幼稚園教育実習、小学校教育実習、施設実習を経験する中で観点を増やし、言語化していく努力を教員側も促していければと考える。次に学生が困難と感じた本時の展開の教師の活動・援助、そして本時のねらいについてであるが、これは実習に行くまでの講義においても機会あるごとに説明しているのであるが、なかなかその意図が伝わりにくい様子である。この辺りは教員側としても工夫していく余地があると思われるので、今後も教科間において研究を行っていきたいと考える。

本研究においては学生の指導案作成の困難な点に着目することがメインの目的ではあったが、逆に学生がどのような観点を持ち帰ってきたのかということについても追加で得られたことも大きいと感じている。保育者としてなかなか良い観点を持ち帰ってくる学生もあり、それを色々課題として感じていることを知り、現場での経験によって学生が持ち帰るものの大きさをさらに知るきっかけともなった。学生が持ち帰ったものをしっかりと広げられるような講義、研究というものができるよう教員としても心掛けたいものである。

謝辞

幼稚園教育実習Ⅰを行うにあたり、実習先としてご協力いただいた附属幼稚園の園長、主任、並びに教員の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 菜原恵子・小林美花「幼稚園教育実習・保育所実習における指導案の現状と課題」北翔大学短期大学部研究紀要 第55号、pp139～145
- 2) 横峯孝昭他「幼稚園教育実習①指導における全教員による取り組み—アンケートから見える教育実習指導の成果と課題—」鹿児島女子短期大学紀要第58号、pp.91～98
- 3) 文部科学省(2018) 幼稚園教育要領解説

(2022年11月22日 受領/2022年12月8日 受理)